

番号	5 - 3	申請者	副診療放射線技師長 川俣 圭輔
<p>【審査申請課題】</p> <p>膝側面撮影におけるScaleを用いた再撮影回数減少の取り組み</p>			
<p>【審査課題の概要】</p> <p>人体の中で最も大きい関節である膝関節は、回旋・転がり・すべりといった複雑な運動をするため、一生を通して障害を受けやすく、撮影頻度の高い関節の一つである。膝関節の側面像は、大腿骨内外顆を体表から目視または触知するのが困難であるうえ、大腿骨内外顆の内外旋と内外転の2軸の補正を行う必要がある。そのため、個人の技術や経験・感覚に依存する転が多く、骨撮影領域でも難しい撮影法であり、再撮影も多くなる傾向となっている。しかし、整形外科領域では、X線検査で確定診断やフォローアップをすることもあり、撮影者が異なっても臨床画像上の診断能が一定となるような画像が求められる。</p> <p>そこで、個人の技術や経験・感覚に依存することなく、スケールを用いて、定量的に膝関節側面撮影の再撮影を行う方法を試みた。まずは、作成したスケールを用いて膝ファントムの撮影を行い、大腿骨内外顆のズレについて改善率を調べる。その後、スケールを使用していない場合と使用した場合の膝関節側面撮影の再撮影回数・再撮率について後ろ向きに観察・比較を行い、スケールを用いた膝関節側面再撮影の有効性を検討する。</p>			
審査結果	条件承認 (令和5年4月26日)		